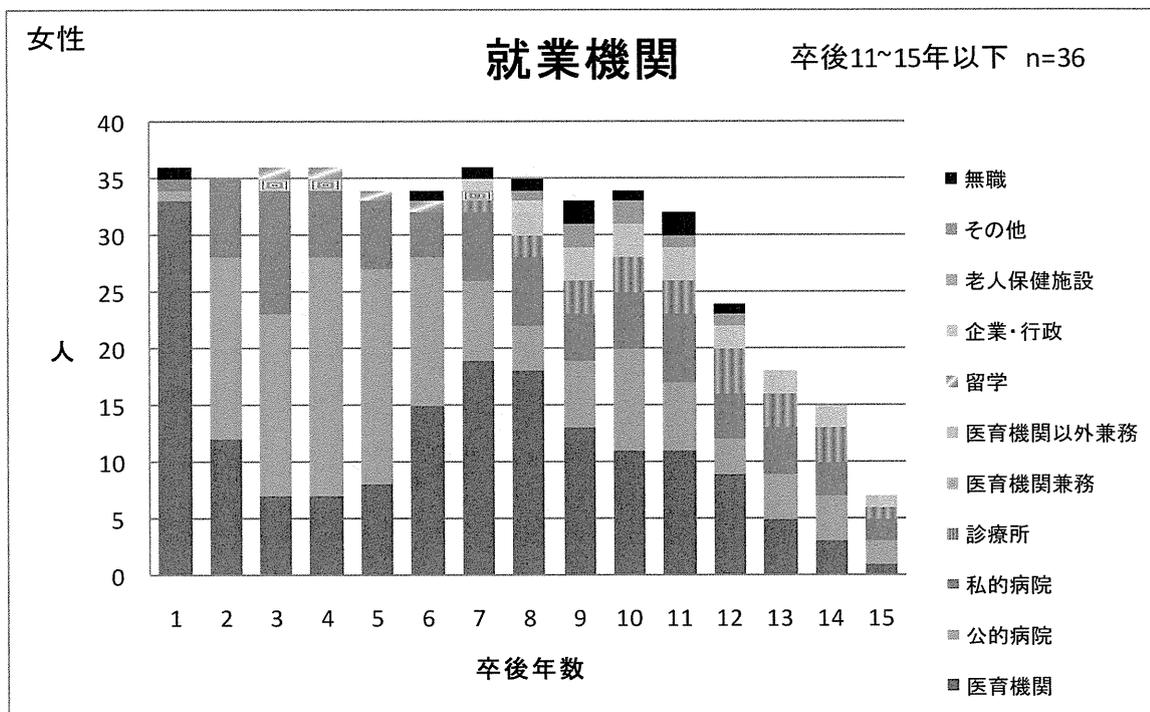


1-3) 女性 卒後11~15年

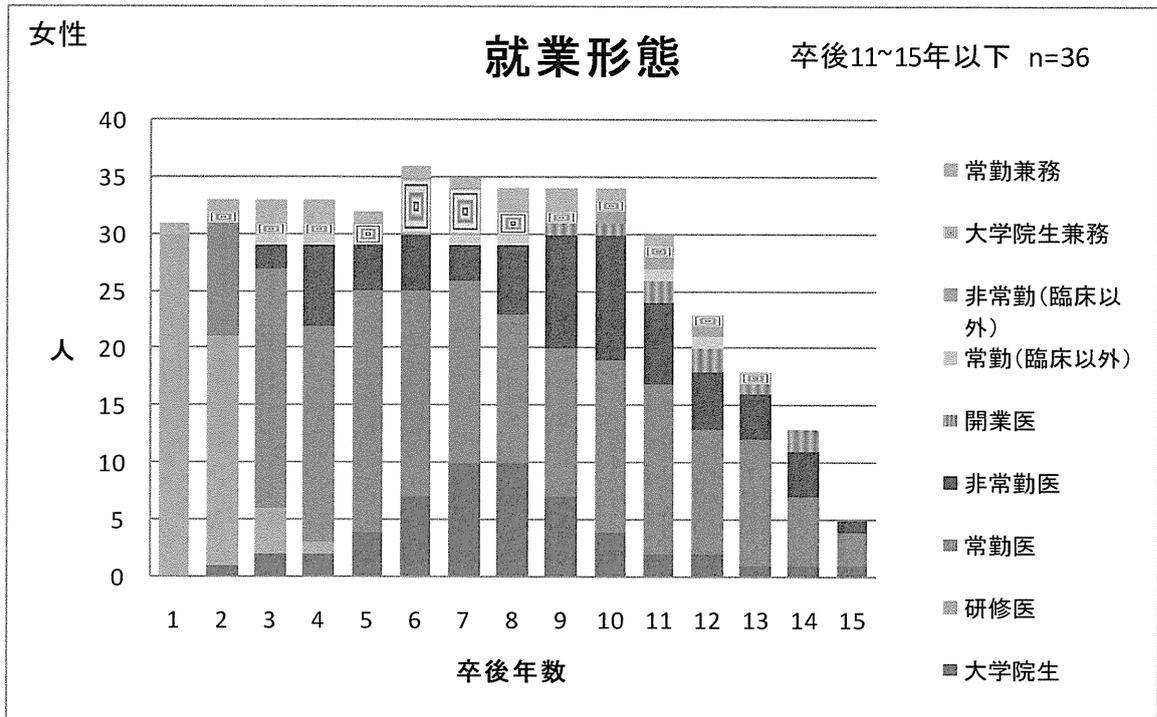
卒後1年目は、医育機関、その後病院に勤務し、卒後6年目程度で医育機関に戻るパターンが見られた。離職者数は少なく、また、数年で復帰している様子が見られた。留学者は卒後3年目から6年目に見られた。

医育機関が多い時期は、身分は、非常勤、大学院生が多い。非常勤率は、卒後10年位までは10~15%程度であるが、卒後9年目あたりから増加し始めていた。開業は卒後9年から見られた。

図1-3 女性 卒後11~15年 a 就業機関



b 就業形態

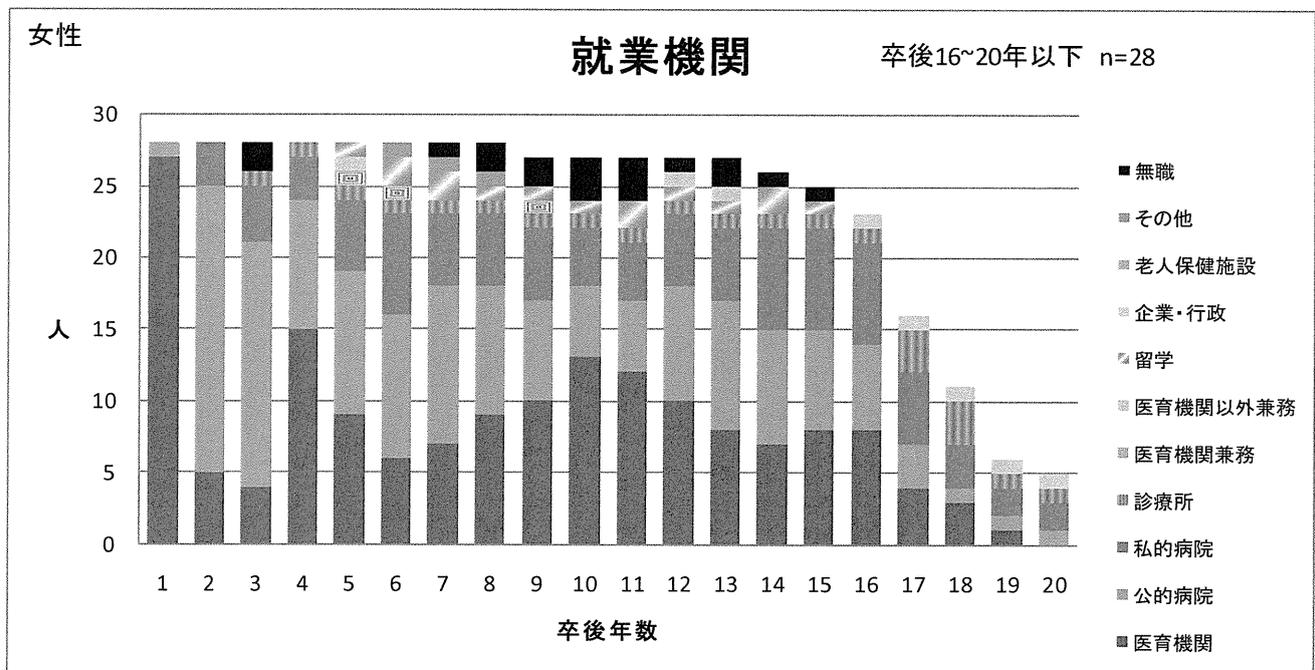


1-4) 女性 卒後16~20年

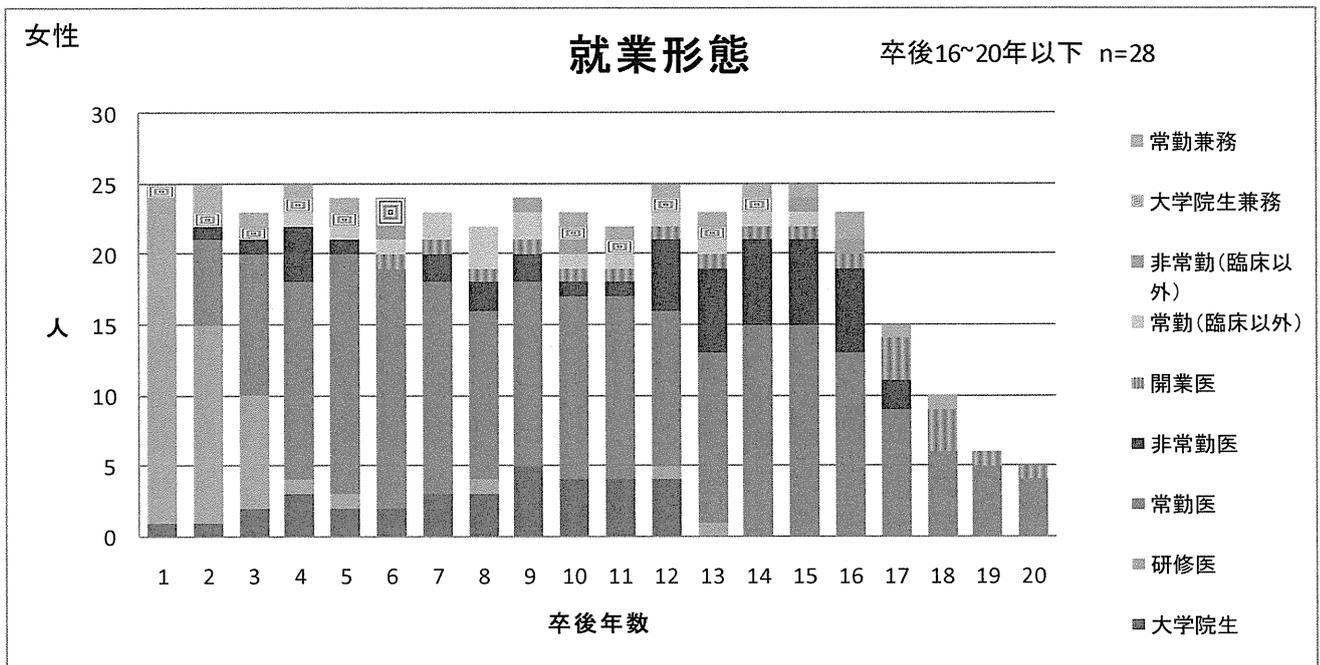
卒後1年目は医育機関、その後は病院、卒後4年目に医育機関の率が上がっているのが他の群とは異なるが、他の群と同様に、卒後10年目あたりをピークに医育機関での勤務が増える傾向を認めた。診療所勤務は少ない傾向にあった。留学は卒後5年から15年にわたって見られた。

身分は、常勤者が多く、卒後12年目ごろから非常勤が増加していた。開業は6年目から見られ、卒後17年から増加傾向にあった。

図1-4 女性 卒後16~20年 a 就業機関



b 就業形態

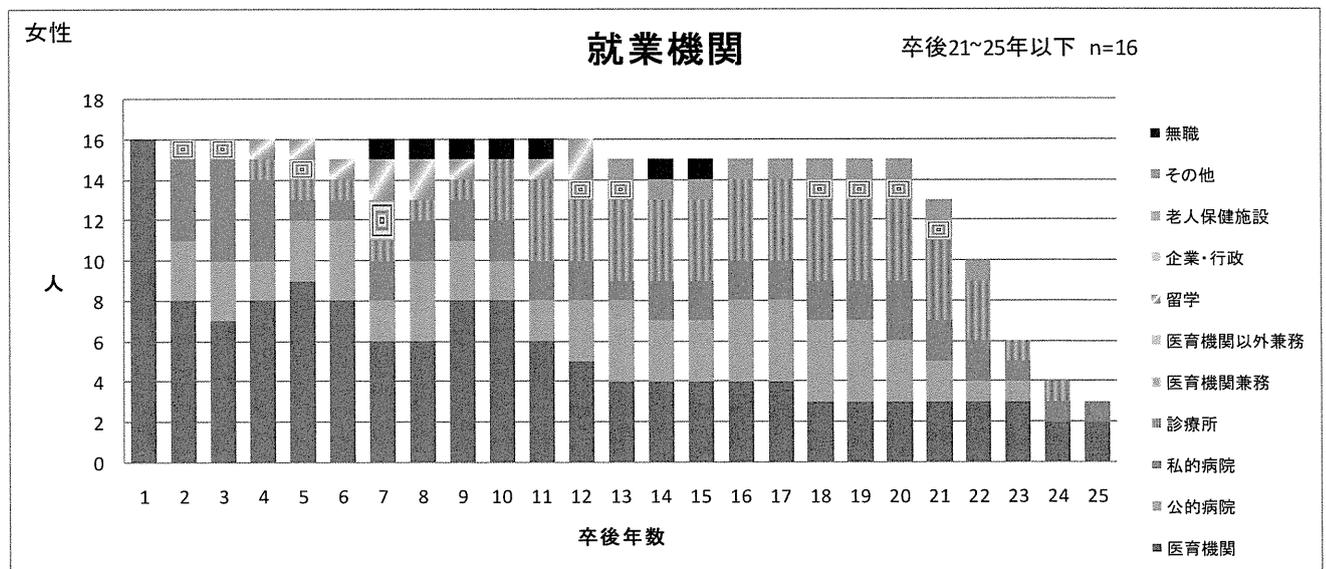


1-5) 女性 卒後21~25年

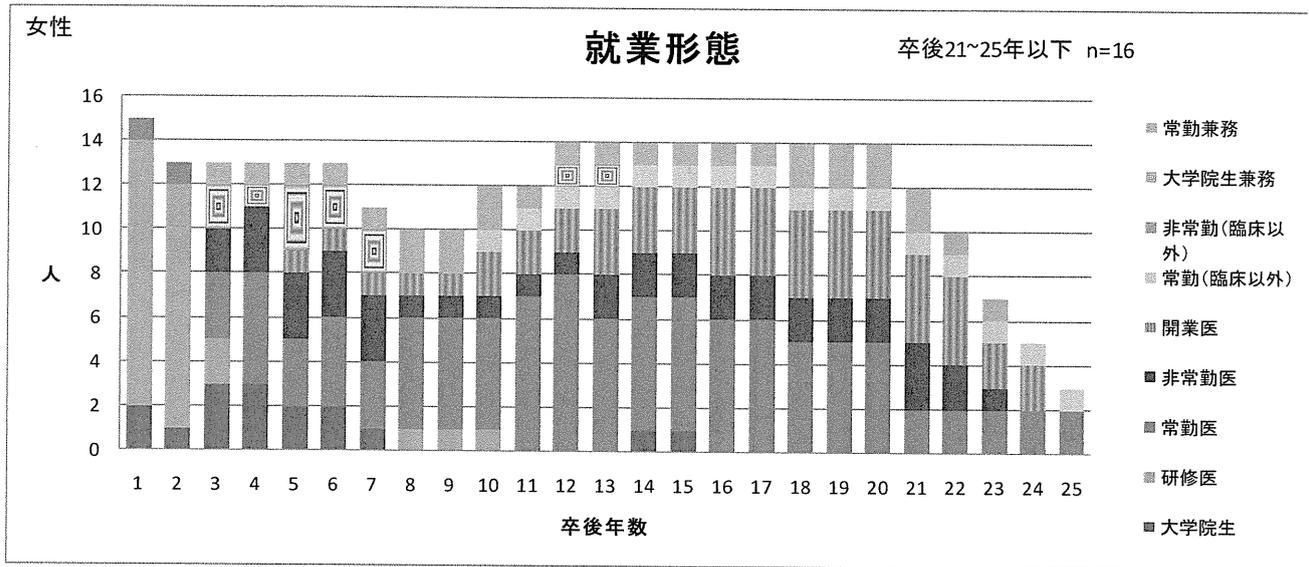
卒後直ぐは医育機関で働いており、その後も医育機関での勤務が多い傾向を認めた。病院勤務は卒後2~20年ごろまで約半数を認め、卒後10年ごろから診療所勤務が増加する傾向にあった。留学は卒後4年から12年まで認めた。無職になった人は少ないが、無職期間は長いことが示唆された。

身分は、大学院生は卒後7年目および卒後12~15年目に見られた。医育機関勤務者が多いため、非常勤がパートタイムかどうか明確ではないが、卒後7年目までは比較的非常勤が多く、その後6~7割が常勤医で非常勤率は低かった、開業は卒後5年目から認められ、診療所勤務というのは開業を意味していると思われた。

図1-5 女性 卒後21~25年 a 就業機関



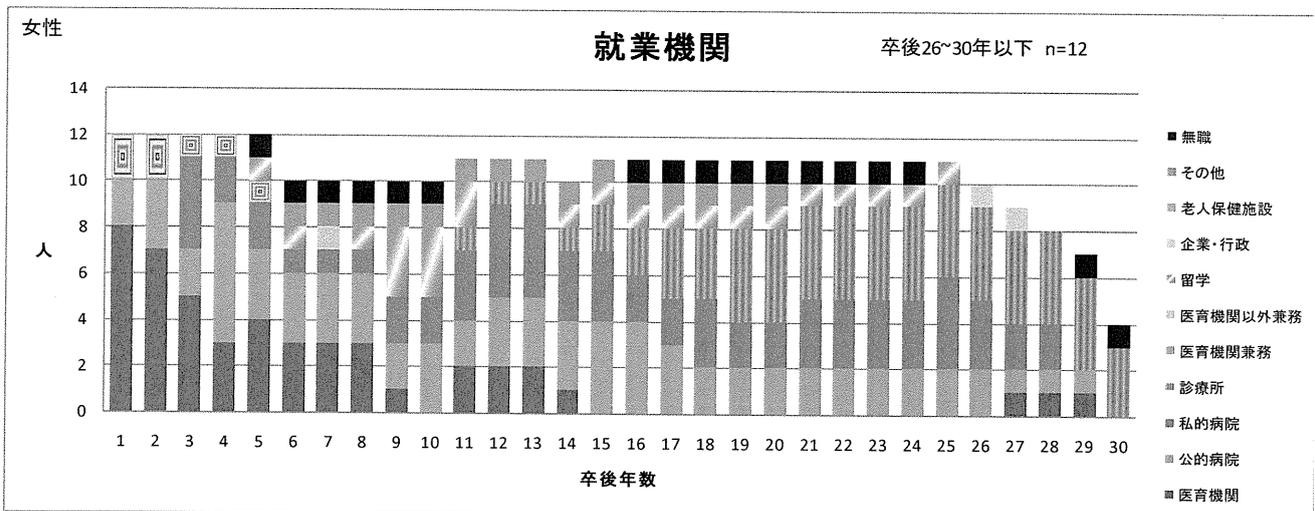
b 就業形態



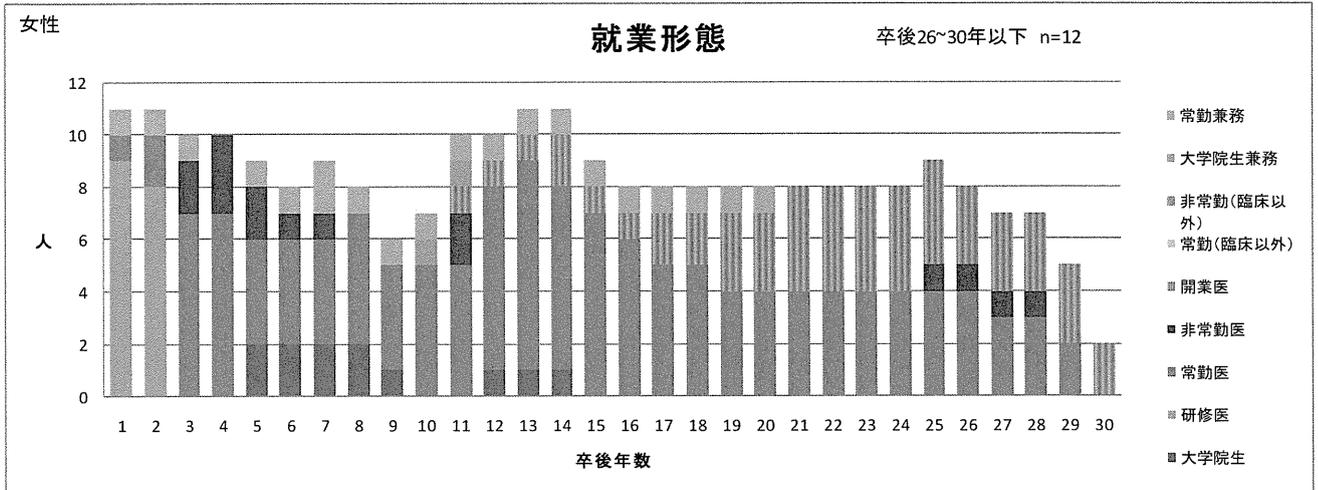
1-6) 女性 卒後26~30年

卒後14年まで医育機関勤務者がいるが、大学院生および大学院生との兼務と考えられた。卒後5年から25年にかけて留学者がいた。卒後11年目より開業がみられ、診療所勤務は開業を意味すると考えられた。離職者と考えられるのは1名であり、卒後5年目より、長期離職していた。

図1-6 女性 卒後26~30年 a 就業機関



b 就業形態



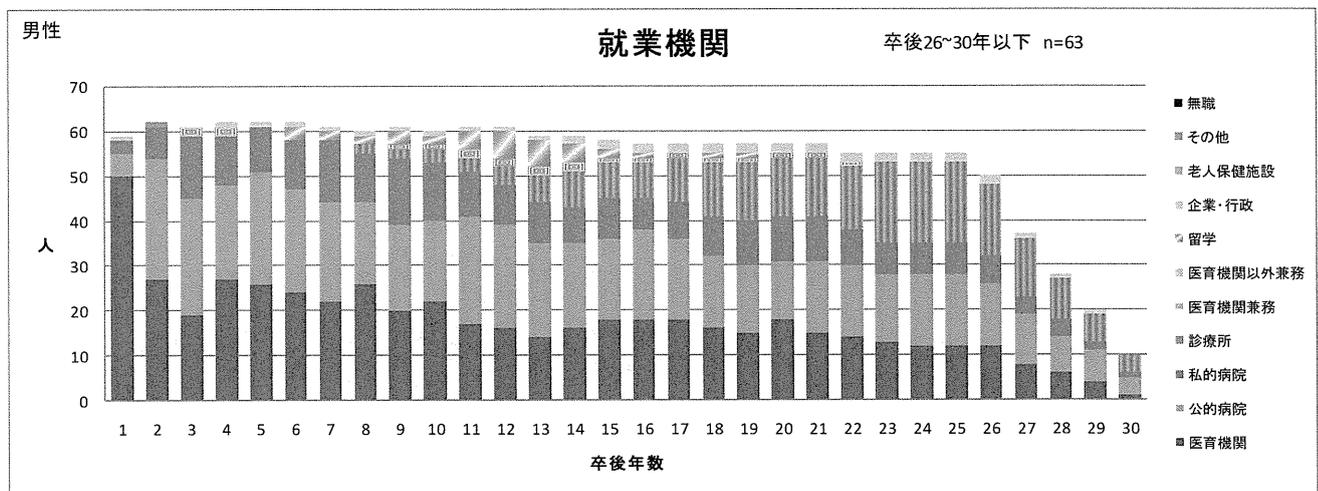
男性

男性の卒後のパターンは比較的变化がなく、卒後直ぐは医育機関、その後4年ごろまでは病院、その後4割程度が医育機関に非常勤あるいは大学院、または兼務で戻り、その後25~30%が医育機関の常勤医となっていた。留学は卒後4~15年目くらいにしていることが多く、開業は卒後7年目ごろから見られた。卒業年度によって開業率には差があった。男性はほぼ常勤として勤務しており、非常勤という身分は、医育機関の医員をあらわしていることが多く、パートタイムは少ないと思われた。

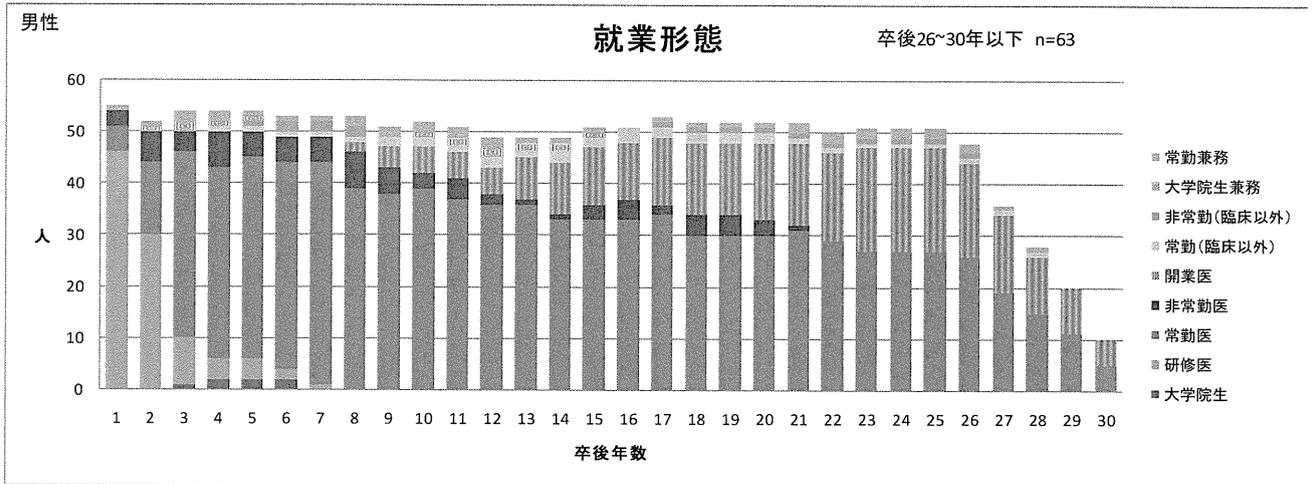
新しい研修医制度が開始されてから、卒後直ぐに医育機関以外の病院への勤務者が若干多い印象があり、また、その後も医育機関に戻らない可能性が示唆された。卒後26~30年目のみ示す。

1-7) 男性 卒後26~30年

図1-7 男性 卒後26~30年 a 就業機関



b 就業形態



2) 労働時間

労働時間の経年変化を卒後 26~30 年を例として示した。

図 1-1 女性 卒後 26~30 年 労働時間

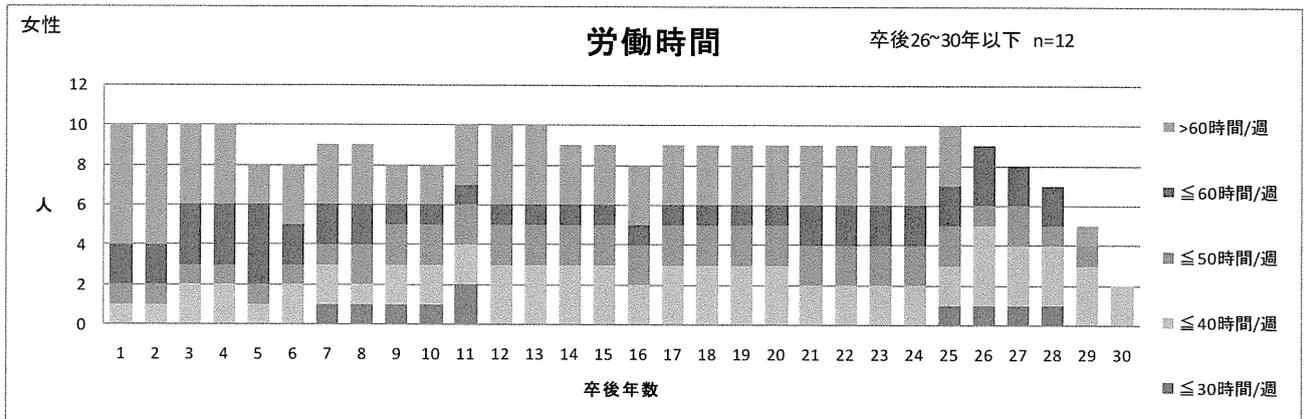
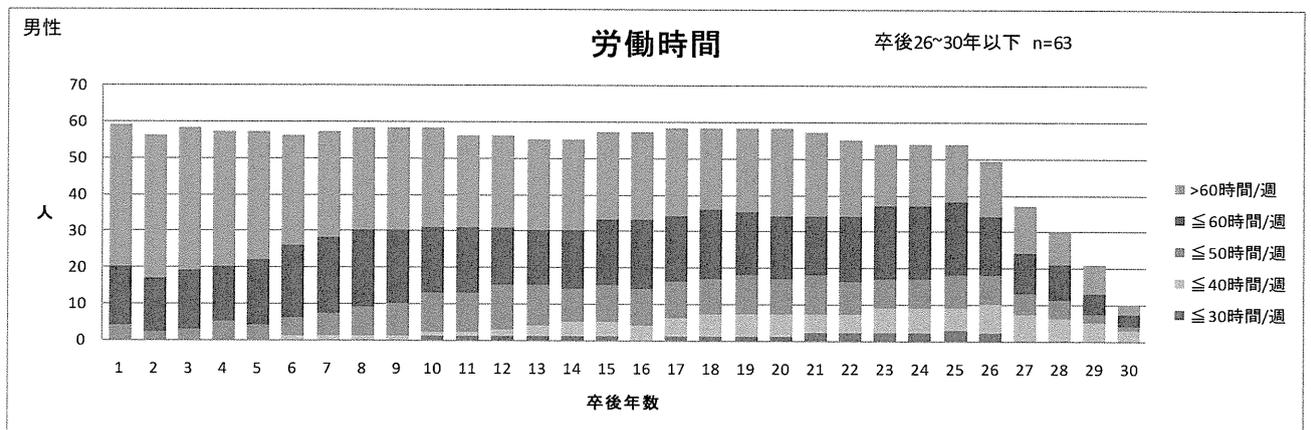


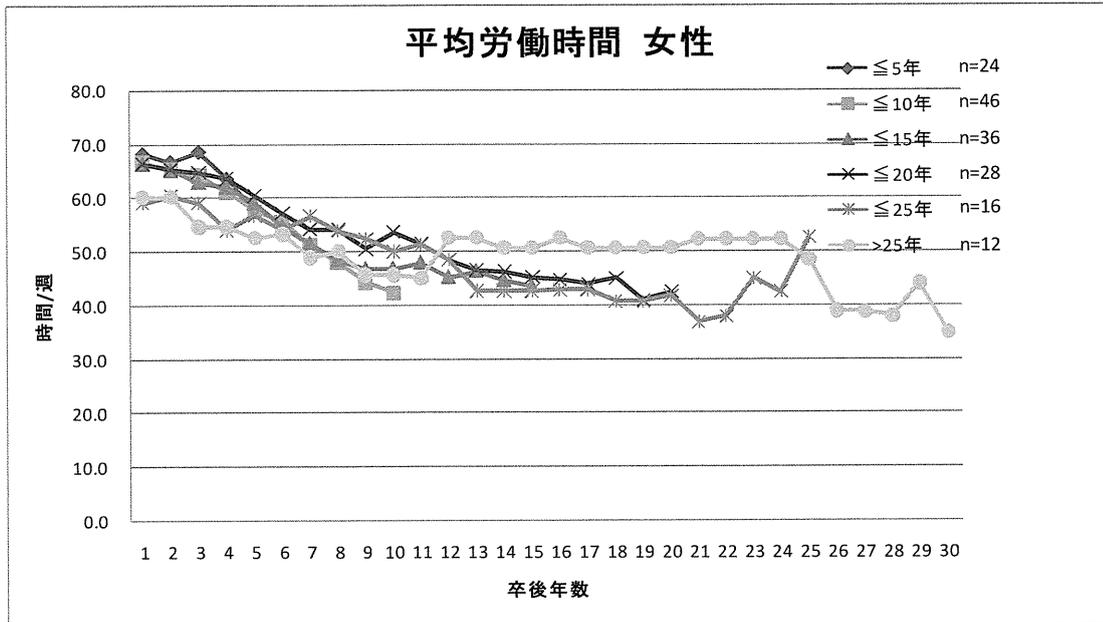
図 1-9 男性 卒後 26~30 年 労働時間



週 30 時間以下を 15 時間、31~40 時間を 35 時間、41~50 時間を 45 時間、51~60 時間を 55 時間、60 時間より多いを 70 時間として平均労働時間を算出した。今回行ったデータでは、60 時間以上の群では、80 時間以上も見られるため、男性では現実よりも若干少なく算出されている可能性がある。また、各群は卒業年数 5 年きざみのため、最後の 5 年間は n 数が減少するため、解釈に注意が必要である。

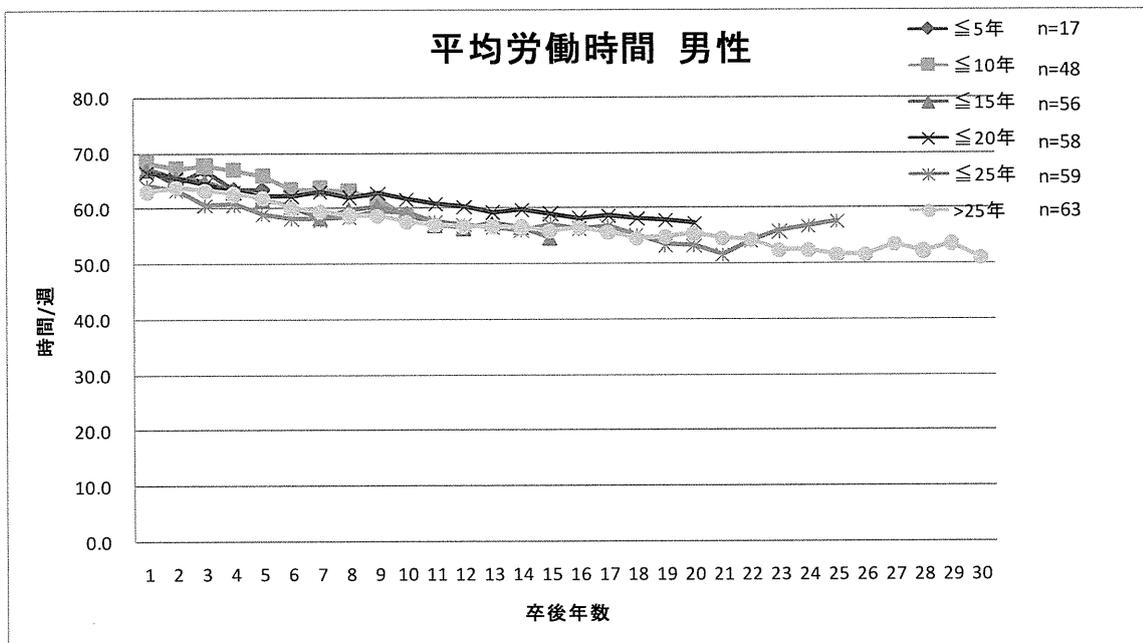
女性の労働時間は、卒後 10 年くらいまで減り続け、その後プラトーに達し、更に卒後 25 年以上で低下してくる傾向があった。卒後 26~30 年は回答数が少なく、データは限定的である。卒後 21 年以上の群では、卒後まもない時期の労働時間が若い世代よりも少ない傾向があるが、想起法を用いているため、データの解釈には注意が必要である。

図 1-10 女性 平均労働時間



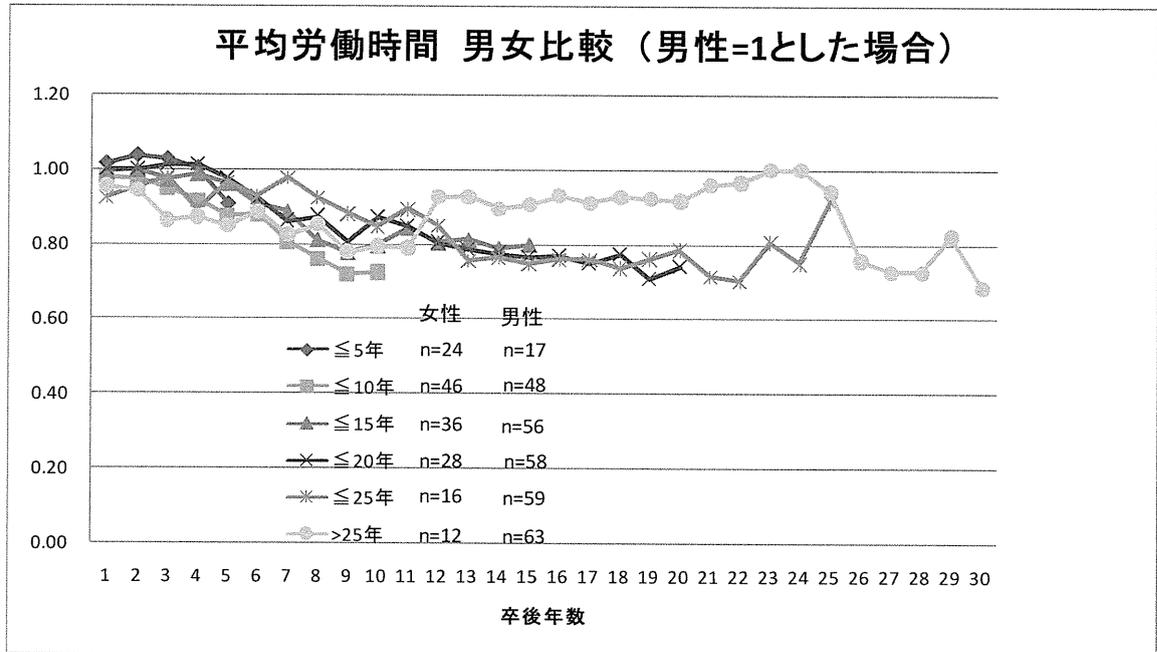
男性の平均労働時間は卒後 10 年くらいまでは週 60 時間以上であり、卒後年数にはあまり関係なかった。卒業年数が増えると若干労働時間は減少するが、週 50 時間以上であった。

図 1-11 男性 平均労働時間



労働時間の男女差を検討したが、卒後5年くらいまでは、女性/男性比は0.85~1.0であるが、その後は0.7~0.9で推移し、卒後年数が多い年代は0.9~1.0まで回復するが、その後の年代は0.8程度で留まっていた。

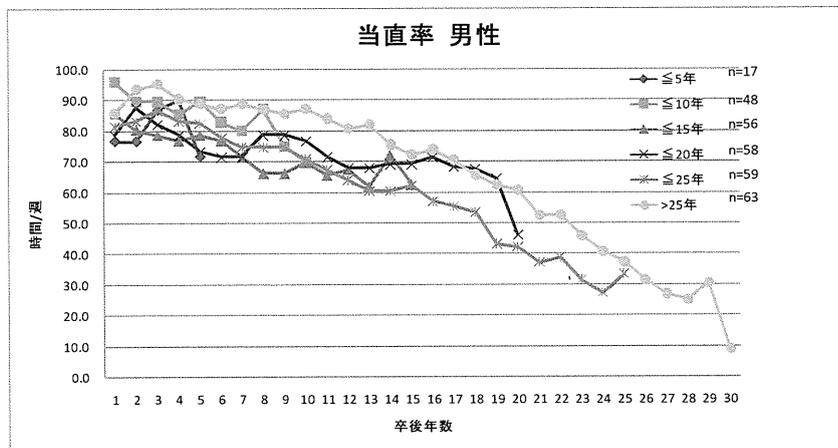
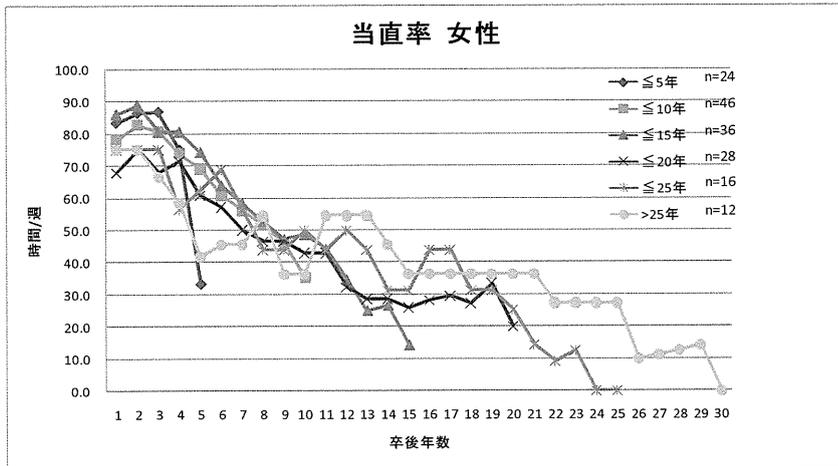
図1-12 平均労働時間男女比較（男性=1とした場合）



3) 当直

卒後 10 年までに女性の当直率はほぼ 50%となり、その後も回復しなかった。男性は、卒後年度が若い方が当直しない率がやや高い傾向にあった。男性は卒後 20 年で当直率はほぼ 50%になっていた。

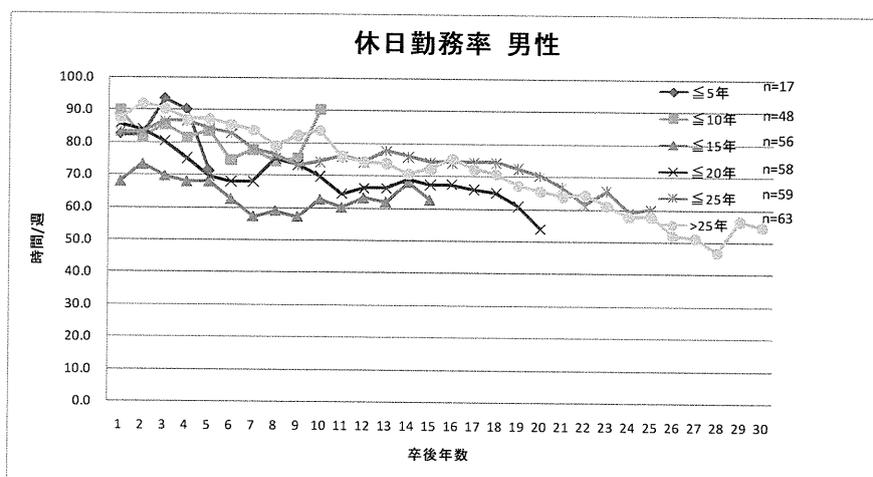
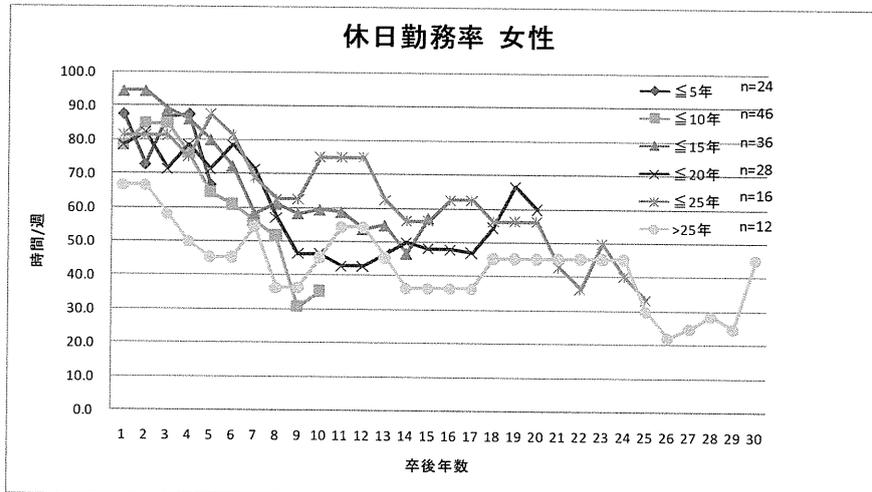
図 1 - 1 3 当直率 女性と男性



4) 休日勤務

女性の休日勤務率は、当直率よりも高い傾向にあったが、同卒後年度の男性に比べて低い傾向にあった。特に卒後10年目までの休日勤務率は低い傾向にあった。

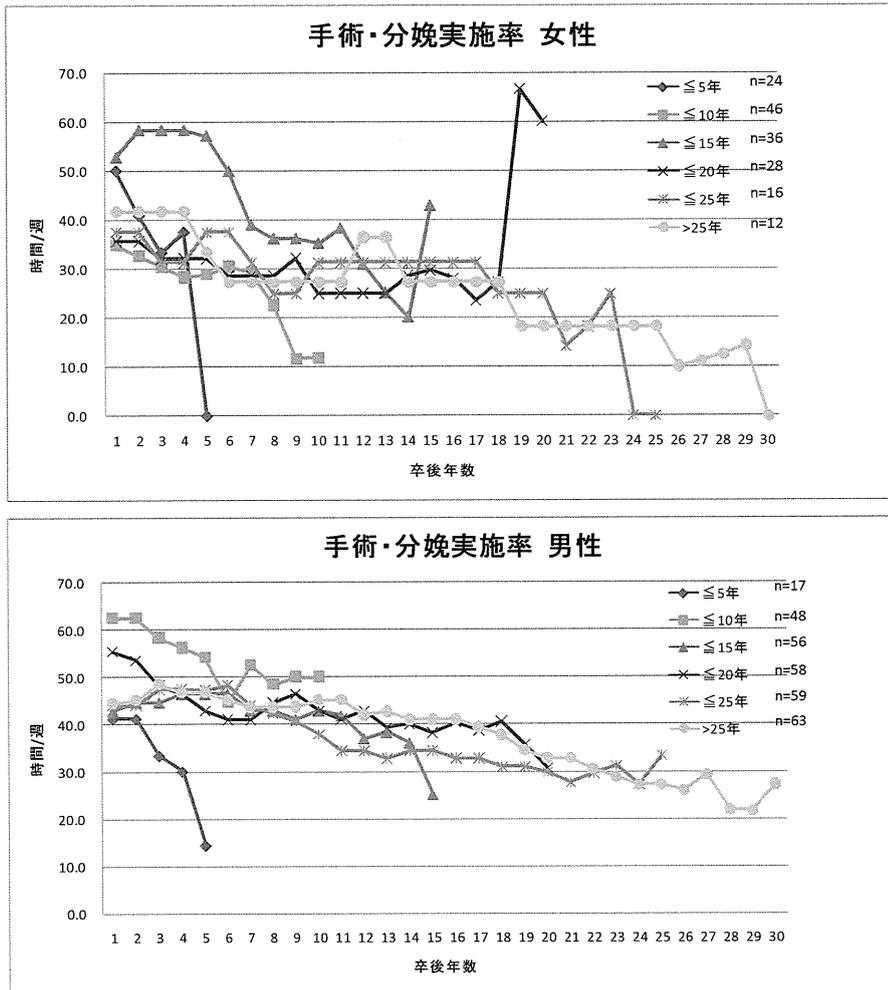
図1-14 休日勤務率 女性と男性



5) 手術・分娩

手術や分娩は、選択した科によっても異なるため、単純な比較は困難であるが、女性では、卒後10年までに低下する傾向が認められた。10年以降20年までは、割合が保たれており、卒後10年まで継続して手術や分娩を行っているかどうか、継続性に関連していることが示唆された。

図1-15 手術・分娩実施率 女性と男性



2. 無職・パートタイムの期間があった人について(横断調査)

2-1) 無職の期間があった人

女性 51 人 (27.4%)、男性 10 人 (2.9%) から回答があった。無職になった時期は、女性では、卒後 5 年以下の群で 13.3%、卒後 6～10 年の群で 27.1%、卒後 10～15 年の群で 31%が経験していた。卒後 11～15 年の群では、卒後 5 年以内が 10.3%、6～10 年が 13.8%、11～15 年が 10.3%であった。それ以上の年齢群では卒後 5 年目以内、10 年目以内が多い傾向があった。無職の期間は 1 年以内が多かったが、卒後 10 年以上の群では、長期無職もあった。女性の場合 無職になった理由として育児が 59.5% (総数からは 16.7%)、配偶者の転勤が 13.4% (総数からは 3.8%) と多かった。復帰した理由に関し、女性 47 人、男性 9 人からの回答があり、女性では、医師の専門性の維持、医師業務が好き、という回答が多かった。

現在も無職の場合、今後の希望について 6 人の回答があり、非常勤あるいは常勤当直なしの希望が 5 人であった。6 人とも休業前の診療科復帰を希望していた。

図 2-1 無職になった時期 (複数回無職になった場合があるため、総計が 100%を超える)

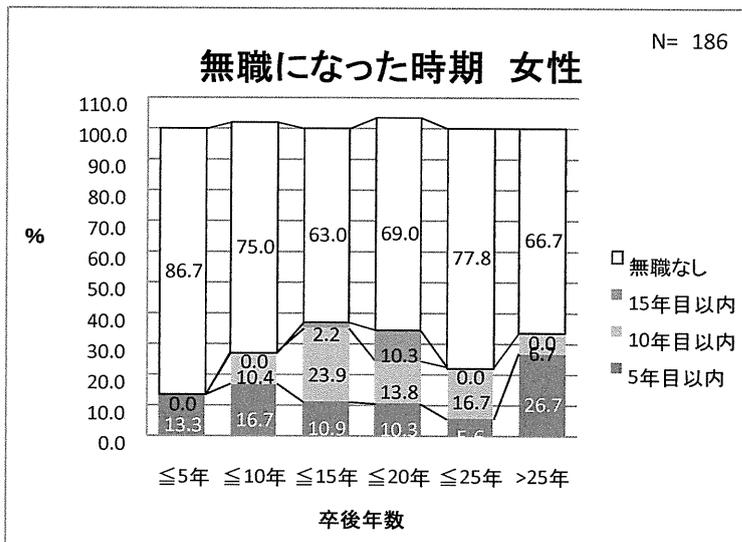
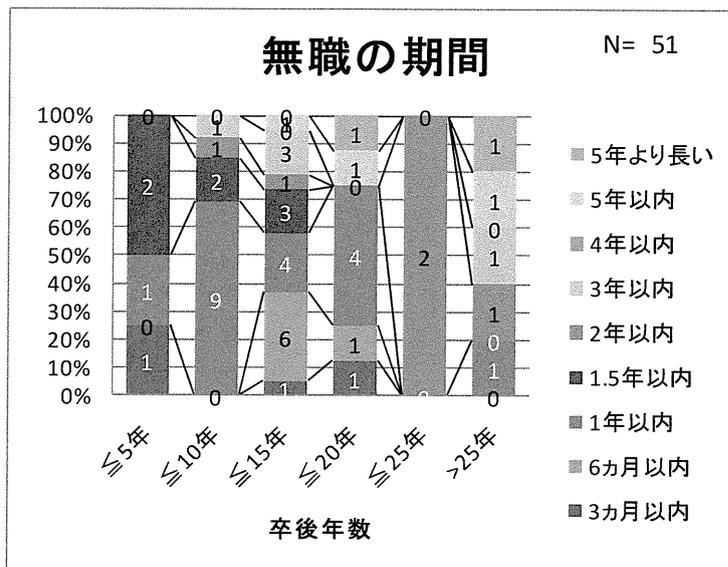


図 2-2 無職の期間



注：人数が少ないため、グラフ内の数値は人数を示している。

表 2-1 無職の理由

性別	Q21	卒後年数						全数	理由の中 の割合
		≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	結婚	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.5	1.9
	育児	6.7	18.8	28.3	17.2	0.0	13.3	16.7	59.5
	介護	0.0	0.0	2.2	0.0	0.0	6.7	1.1	3.8
	自身の病気	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.5	1.9
	配偶者の転勤	3.3	2.1	2.2	6.9	5.6	6.7	3.8	13.4
	医師業務が合わなかった	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.5	1.9
	他にやりたいことがあった	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.9
	その他	3.3	2.1	4.3	3.4	11.1	6.7	4.3	15.4
男性	医師業務が合わなかった	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	0.0	0.3	11.0
	他にやりたいことがあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.1	0.6	22.0
	その他	0.0	0.0	0.0	1.5	4.9	1.6	1.7	65.9

表 2-2 復帰した理由（上位3つ）

性別	Q22	卒後年数						全数	理由の中 の割合
		≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	医師の専門性の維持	3.3	16.7	32.6	20.7	16.7	20.0	19.4	30.8
	同僚に負担がかかっていた	0.0	2.1	0.0	3.4	0.0	0.0	1.1	1.7
	医師業務が好きだから	0.0	16.7	30.4	17.2	22.2	26.7	18.8	29.9
	使命感	0.0	8.3	4.3	3.4	11.1	20.0	6.5	10.3
	経済的な理由	0.0	4.2	8.7	10.3	5.6	13.3	6.5	10.3
	同僚や先輩の意見	0.0	2.1	6.5	0.0	0.0	0.0	2.2	3.4
	家族の意見	0.0	6.3	8.7	3.4	5.6	0.0	4.8	7.7
	患者さんの要望	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0.0	4.2	2.2	6.9	0.0	13.3	3.8	6.0
男性	医師の専門性の維持	0.0	1.9	0.0	0.0	0.0	4.7	1.1	23.3
	同僚に負担がかかっていた	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	医師業務が好きだから	0.0	0.0	0.0	0.0	2.5	3.1	1.1	23.3
	使命感	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.3	5.8
	経済的な理由	0.0	0.0	0.0	1.5	1.2	1.6	0.9	17.5
	同僚や先輩の意見	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.3	5.8
	家族の意見	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	患者さんの要望	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0	0.0	4.9	0.0	1.1	23.3

表 2-3 現在も無職の場合、今後の希望

性別	Q23-1	卒後年数						全数	
		≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	非常勤で復帰			1				1	2
	常勤当直なしで復帰	2	1						3
	常勤当直ありで復帰	1							1

2-2) パートタイムの期間があった人

非常勤というのは医員としての身分を示す言葉であり、短時間勤務とは必ずしも一致しないため、パートタイマーという表現を用いた。

女性 56 人 (30.1%)、男性 23 人 (6.6%) がパートタイムを経験しており、卒後 6~10 年目に経験した人が多かった。パートタイム期間は様々であった。

女性の場合、パートタイムになった理由として育児が 52.9% (総数からは 19.4%)、子どもの教育が 8.8% (総数からは 3.2%)、配偶者の転勤が 5.9% (総数からは 2.2%) と多かつ

た。フルタイムに戻った理由としては、女性 57 人、男性 27 人からの回答があり、女性では、医師の専門性の維持、医師業務が好き、男性では経済的理由という回答が多かった。現在もパートタイムの人の今後の勤務時間の希望は、パートタイム継続希望が多く、次いで当直のない常勤希望が多かった。

図 2-3 パートタイムで働いた時期
(複数回パートタイムになった場合があるため、総計が 100%を超える)

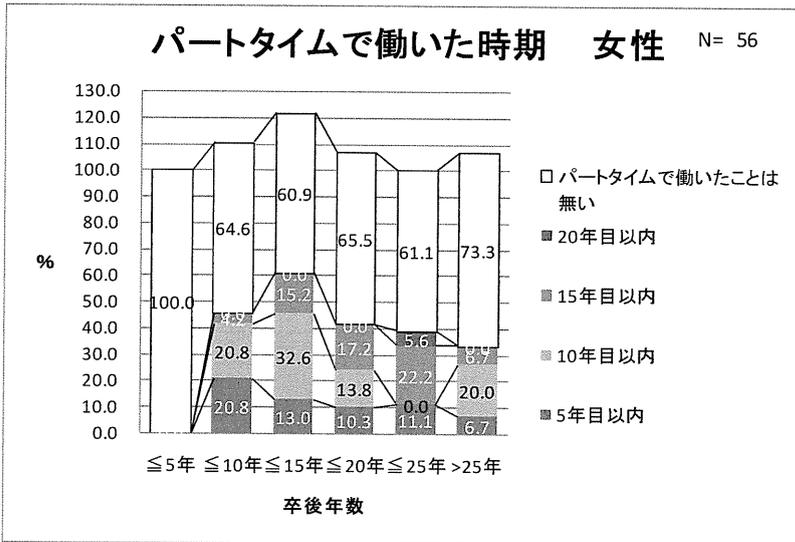
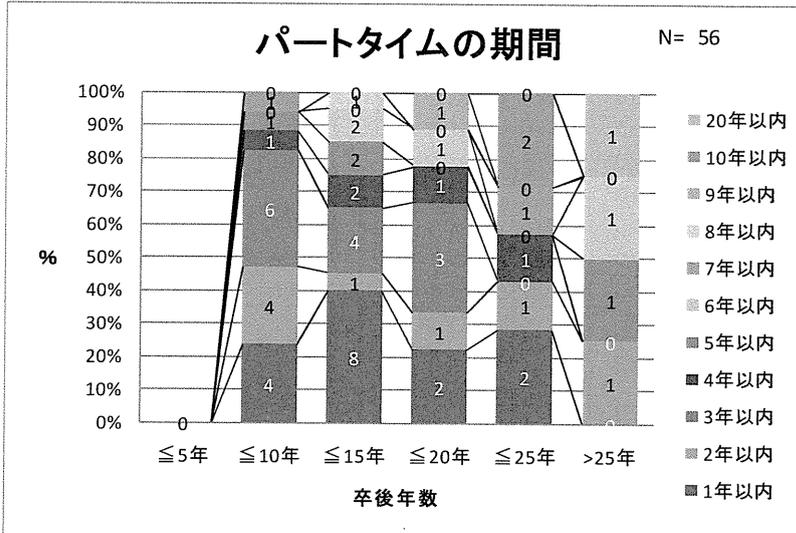


図 2-4 パートタイムの期間



注：人数が少ないため、グラフ内の数値は人数を示している。

表 2-4 パートタイムになった理由

		卒後年数						全数	理由の中 の割合
性別	Q26	≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	結婚	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.5	1.5
	育児	0.0	22.9	30.4	20.7	16.7	13.3	19.4	52.9
	子供の教育	0.0	2.1	4.3	3.4	5.6	6.7	3.2	8.8
	介護	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	6.7	1.1	2.9
	自身の病気	0.0	2.1	2.2	0.0	5.6	6.7	2.2	5.9
	配偶者の転勤	0.0	0.0	2.2	6.9	0.0	6.7	2.2	5.9
	他にやりたいことがあった	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.5	1.5
	その他	0.0	8.3	8.7	10.3	5.6	13.3	7.5	20.6
男性	育児	0.0	0.0	1.6	1.5	0.0	0.0	0.6	8.7
	子供の教育	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.3	4.3
	他にやりたいことがあった	0.0	1.9	0.0	1.5	3.7	0.0	1.4	21.6
	その他	0.0	5.8	3.1	6.2	3.7	4.7	4.3	64.9

(%)

表2-5 パートタイムの期間があり、現在フルタイムに復帰した人の復帰の理由

		卒後年数						全数	理由の中 の割合
性別	Q27	≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	医師の専門性の維持	0.0	4.2	8.7	17.2	22.2	0.0	8.1	26.4
	同僚に負担がかかっていた	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	1.8
	医師業務が好きだから	0.0	2.1	4.3	20.7	16.7	20.0	8.1	26.4
	使命感	0.0	0.0	4.3	0.0	5.6	0.0	1.6	5.3
	経済的な理由	0.0	2.1	8.7	6.9	11.1	6.7	5.4	17.6
	同僚や先輩の意見	0.0	0.0	4.3	3.4	0.0	0.0	1.6	5.3
	家族の意見	0.0	2.1	0.0	6.9	0.0	0.0	1.6	5.3
	患者さんの要望	0.0	0.0	0.0	3.4	0.0	0.0	0.5	1.8
	その他	0.0	2.1	2.2	6.9	5.6	6.7	3.2	10.5
男性	医師の専門性の維持	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	1.6	0.3	3.7
	同僚に負担がかかっていた	0.0	0.0	0.0	0.0	1.2	0.0	0.3	3.7
	医師業務が好きだから	0.0	0.0	0.0	1.5	1.2	3.1	1.1	14.8
	使命感	0.0	0.0	0.0	1.5	2.5	0.0	0.9	11.1
	経済的な理由	0.0	0.0	0.0	1.5	3.7	3.1	1.7	22.3
	同僚や先輩の意見	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	家族の意見	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	患者さんの要望	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.3	3.7
	その他	0.0	7.7	3.1	1.5	2.5	3.1	3.1	40.8

(%)

表2-6 現在もパートタイムの方の今後の勤務時間の希望

		卒後年数						全数	理由の中 の割合
性別	Q28	≤5年	≤10年	≤15年	≤20年	≤25年	>25年		
女性	このままパートタイム勤務継続	0.0	10.4	8.7	6.9	16.7	6.7	8.1	46.9
	常勤当直なし	0.0	14.6	8.7	3.4	5.6	0.0	7.0	40.6
	常勤当直あり	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	開業	0.0	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	0.5	3.1
	辞めたい	0.0	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.5	3.1
	その他	0.0	0.0	4.3	0.0	0.0	0.0	1.1	6.3
男性	このままパートタイム勤務継続	0.0	0.0	1.6	1.5	1.2	1.6	1.1	81.6
	常勤当直なし	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	常勤当直ありで復帰	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	開業	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	辞めたい	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	その他	0.0	0.0	0.0	1.5	0.0	0.0	0.3	20.4

(%)

3. 労働時間（横断調査）

女性は非常勤に移行する率が高く、労働時間はすべての卒後年数で男性よりも少なかった。中間値として、30時間以下を15時間、30~40時間を35時間、40~50時間を45時間、50~60時間を55時間、60~80時間を70時間、80時間以上を90時間として、平均労働時間を算出した。平均労働時間で比較すると、特に卒後6~10年目の男女差が大きく、男性59.6時間に対し、女性38.1時間であった。卒後年数が増えても、女性の労働時間は低値にとどまった。子ども有の女性の労働時間は特に卒後すべての群で子ども無の女性に比して低値であり、特に卒後6~25年の群では低い傾向があった。

男性は、60時間/週以上の労働時間が多く、若年期および医育機関や公的病院では卒後21~25年の群で平均労働時間が多かった。

図3-1 労働時間 女性と男性

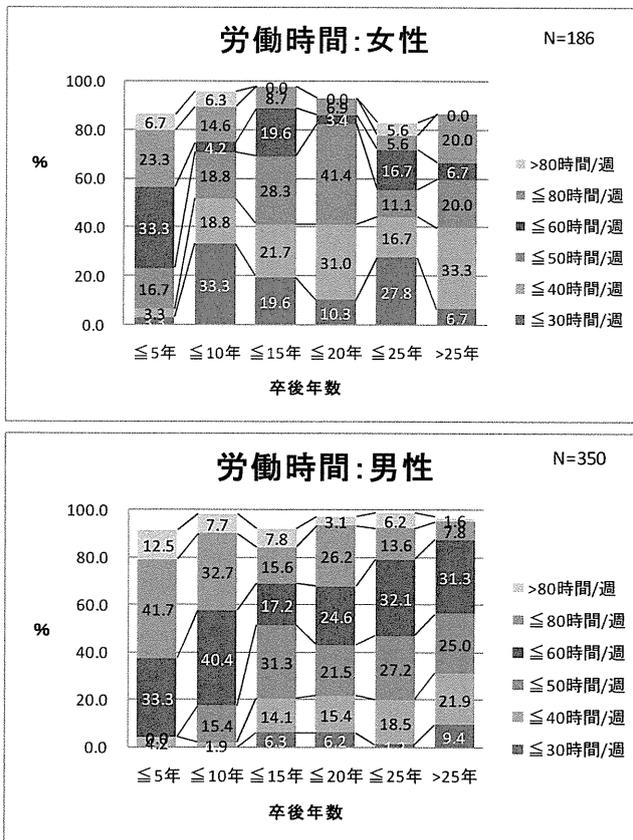
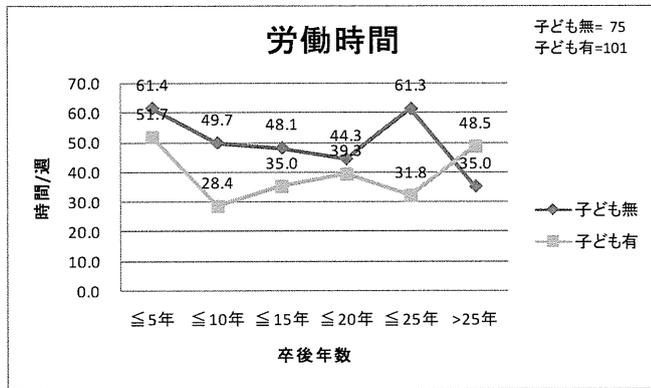
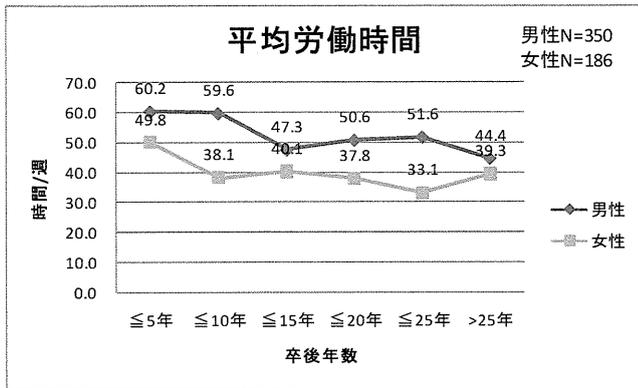


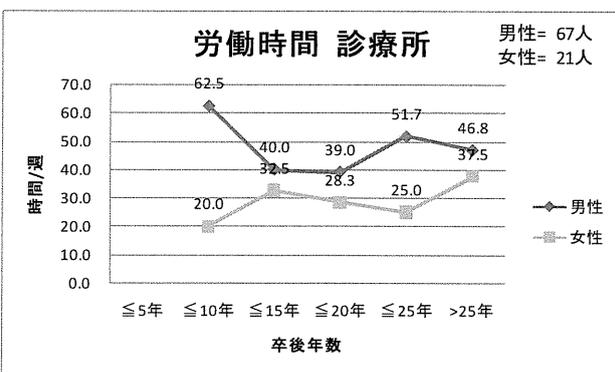
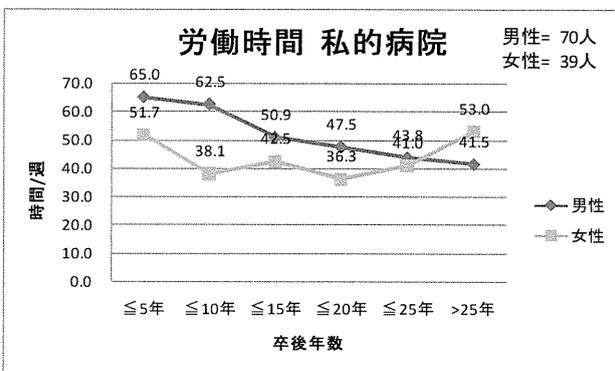
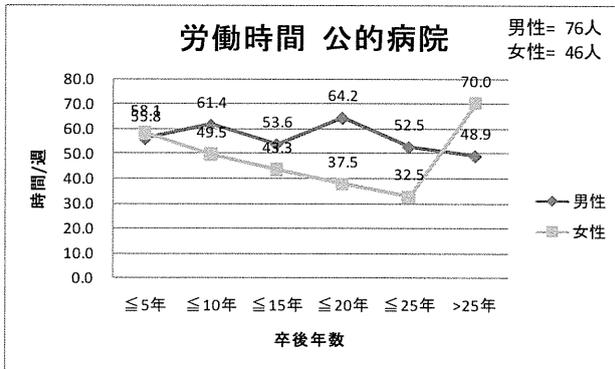
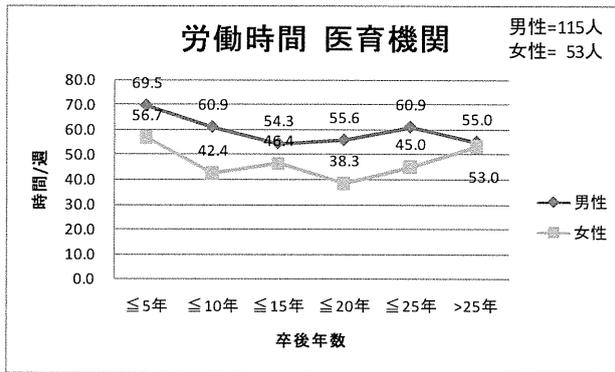
図3-2 平均労働時間 女性と男性
子どもの有無

図3-3 平均労働時間 女性 子
どもの有無



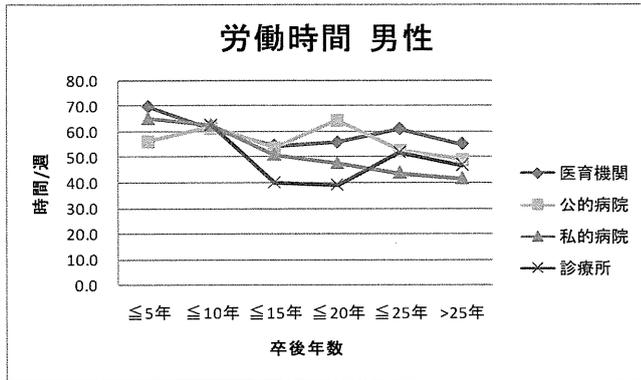
就業機関別では、就業機関のいずれでも、女性の労働時間は男性を下回り、特に卒後 5~10 年目の群では、私的病院や診療所での女性の労働時間は短かった。

図 3 - 4 平均労働時間 就業機関



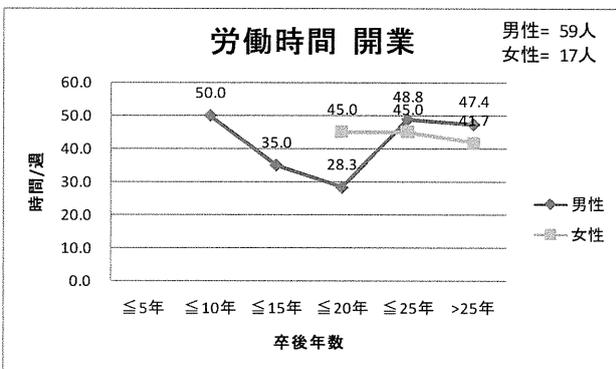
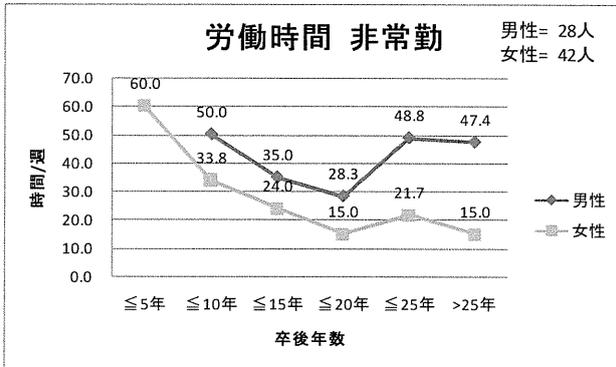
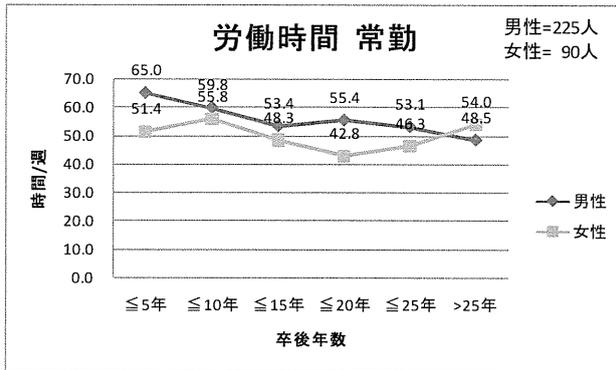
男性の就業機関ごとの労働時間を比較すると、全体的には医育機関の労働時間が長い傾向があった。

図3-5 平均労働時間 男性 就業機関別



勤務形態別の労働時間では、常勤医で男女を比較した場合は卒後6~10年の群では、男女にほとんど差がなく、男女の差は他の勤務形態に比して少なかった。非常勤の場合は、卒後5年以下を除いて、すべて女性が男性よりも短い傾向にあった。

図3-6 平均労働時間 勤務形態別



4. 若年医師のワーク・ライフ・バランス意識について

卒後15年以下の医師の勤務形態、育児休業などの希望について調査した。

4-1) 今後の就労希望

今後の勤務形態としての希望は、女性は、約半数が常勤当直なしを希望しており、卒後年数が増えるほど、常勤当直ありの希望が減少し、非常勤の希望が増加した。男性も卒後年数が増えるほど、常勤当直なしの希望が増加し、卒後11~15年目では、約半数が常勤当直なしを希望していた。男性の一部には医師を辞めたいという希望もあった。診療科の変更希望者は少なかった。今後の診療内容の希望としては、専門性の志向が高かったが、女性では、負担が少ないものを希望する人は15%程度いた。勤務機関については、女性は早期から医育機関での勤務希望者が男性よりも少なく、病院あるいは診療所勤務を希望していた。男性は卒後10年までの群は医育機関の希望者が1/4程度であるが、病院希望者がどの群でも多かった。